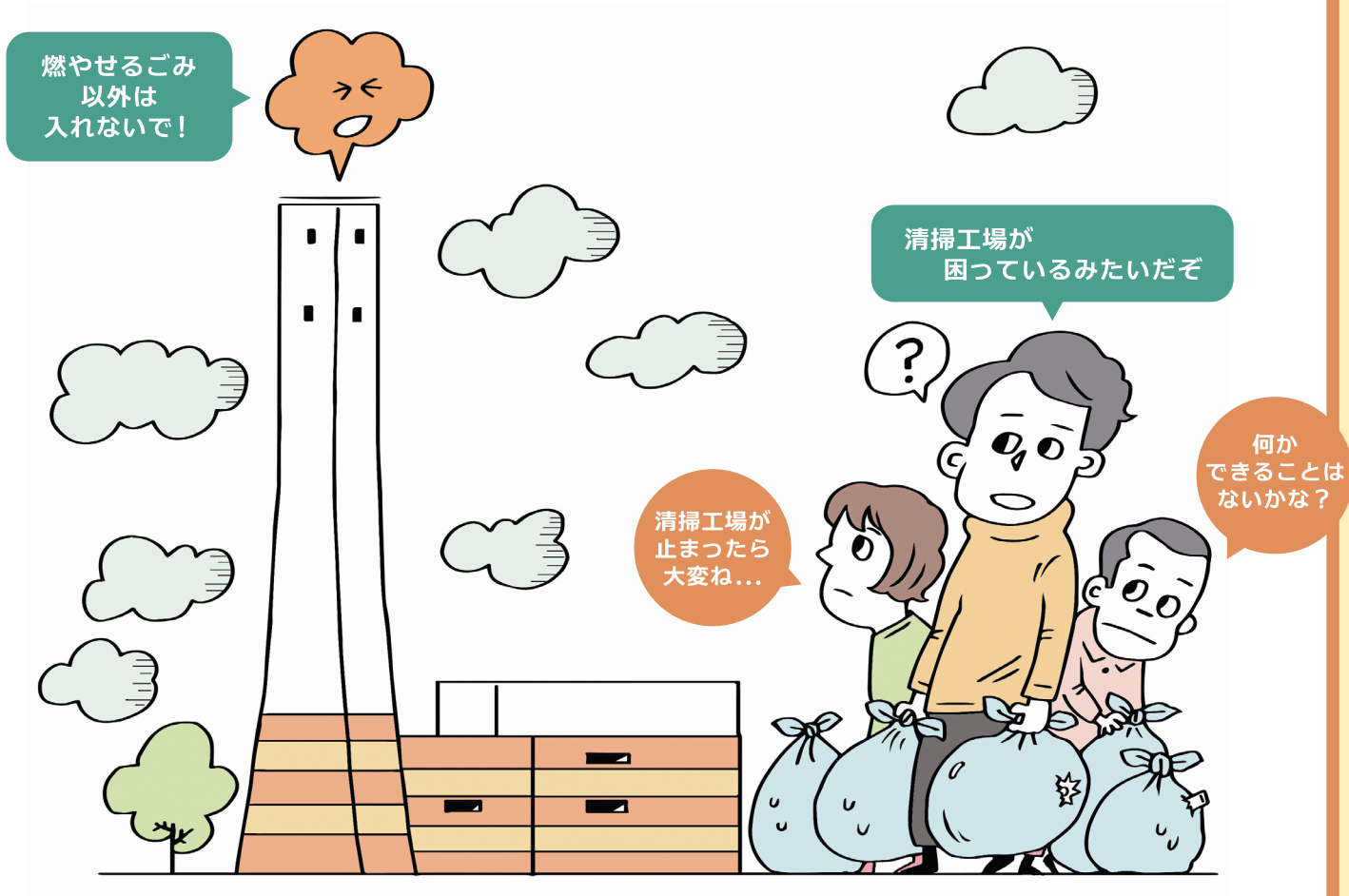


排出抑制・適正分別にご協力ください！

ごみ収集・資源回収について



ごみを出す時の約束 5ヶ条

1

金属・陶器・ガラスごみや布団などの粗大ごみは、絶対に燃やすごみに出さないでください。

2

生ごみは、水切りを十分に行ってください。

3

雑がみは、可燃ごみではなく「資源」の日に出してください。

4

トレー・プラスチック容器は、水洗いして「資源」の日に出してください。

5

食品ロスを削減しましょう。

排出抑制・適正分別にご協力ください！

1. 金属・陶器・ガラスごみや布団などの粗大ごみは、絶対に燃やすごみに出さないでください。

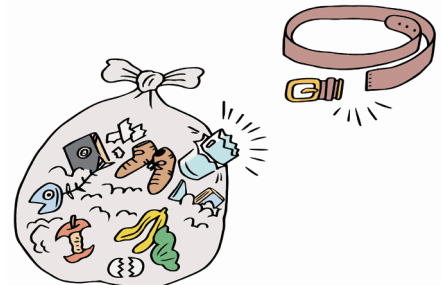
革のベルトのように、燃やせる部分と金属部分が一緒になっているものはできるだけ取り外してください。



焼却炉から出てきた不燃物



焼却炉内部に絡まった不燃物



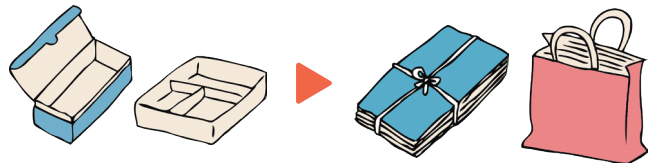
2. 生ごみは、水切りを十分に行ってください。

生ごみの約8割が水分です。水切りするだけで、家庭ごみを減量できます。



3. 雑がみは、可燃ごみではなく「資源」の日に出してください。

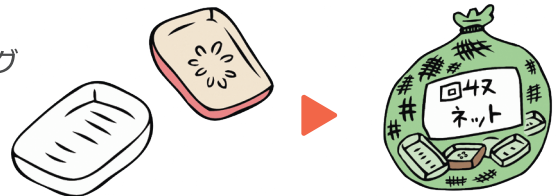
豊島区では、包装紙と厚紙製の箱は「資源」として回収しています。燃やすごみの日ではなく、資源(紙・布類)の日に出してください。包装紙や厚紙製の箱は、十字に縛るか紙袋に入れて出してください。



4. トレー・プラスチック容器は、水洗いして「資源」の日に出してください。

豊島区では、以下のプラスチック容器とトレーは「資源」として回収しています。燃やすごみの日ではなく、資源(びん・かん・ペットボトル類)の日に出してください。

- ・プラスチック容器(シャンプー・リンス・ソース・ドレッシング
化粧品・洗剤・食用油)
- ・トレー(食品用の発泡スチロール製の皿)



5. 食品ロスを削減しましょう。

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまった食品のことです。日本では、年間約612万トン(平成29年度実績値)の食品ロスが発生しています。これを日本人1人当たりで換算すると、毎日お茶碗1杯分のご飯の量を捨てていることとなります。以下の取組で食品ロスを削減することで、ごみの量を減少できます。

- ① 買い物は、まず冷蔵庫の中を見てから行きましょう。
- ② 作り置きができれば、まとめ買いもお得です。
- ③ 余ったおかずは冷凍保存を。
- ④ 作り置きは、傷みやすいものから食べましょう。